

## 「戦争いやだ」心にしみた

表題は朝日新聞 8 月 18 日朝刊「笑いにのせて③」。服飾評論家ピーコさんが、「笑いながら怒ればいい 私も続ける」と語る。

7 月になくなった永六輔さんは、声高に言わないけど、立場の弱い人たちの側に立ってものをしゃべったり、見たりすることが大事だといつも語っていました。「沖縄からは東京が見えるけど、東京からは沖縄が見えないんだよ」って。

沖縄の現状って、今も東京にいる人たちにはわかっていない。基地移転問題も、沖縄の民意はノーなのに、国は目を向けないわけでしょ？

永さんは元々放送作家、巨泉さんも元ジャズ評論家で多趣味だったから、言葉や表現が上手で知識がすごい。一つの言葉から広がって色んな話につながっていく。

だから、「戦争はいやだ」っていう話も、永さんや巨泉さんの口から出るとみんな聞いてくる。昨年亡くなった野坂昭如さんと永さんのトークショーでも、やっぱり心にしみる言葉を話してらしたし。大きな財産を失っちゃったんだと思う。私なんか、その人たちについて行っていればよかったわけですから。

NHK の追悼番組に出て、「永さんは戦争が嫌だって思っている。戦争はしちゃいけないと。世の中がそっちのほうに向かっているんで、それを言いたいんでしょうね」と言ったら、そこがぼっさり抜かれていた。放送を見て力が抜けちゃって ---。永さんが言いたいことを伝えられないふがいなさがありますね。付き合い始めのころ、こう言われたの。「ピーコとおすぎは炭鉱のカナリアになりなさい」って。

私に力があるかわからないけど、しゃべり続けていけばいいと思う。永さんが言ってくれたように、笑いながら怒ったりしていればいいの。

表題の「戦争はいやだ」心にしみた、という言葉が印象に残った。それにしても腹が立つのは、NHK の追悼番組の話だ。永さんの追悼のために、ピーコさんがいちばん永さんの言いたいことを伝えようとしたが、それを平気で「カット」する一方的な姿勢だ。これは憶測だが、「世の中がそっち（戦争）のほうに向かっている」という言葉に、安倍政権の後ろ盾となった NHK は引っかかったのではないか。「伝わらぬふがいなさ」を笑いながら、しっかり肝に銘じて怒り続けたい。

(2016 年 8 月 21 日)

